

# 道徳科の授業づくりシート

教材名 ネット将棋	内容項目 A-(1) 自主、自律、自由と責任
ねらいとする価値（学習指導要領を基にした指導の要点） 自ら考え、判断して行動し、人や物事に対して誠実であること。また、自己の行為やその結果に責任をもつこと。	
生徒の実態（略）	

主 題 名	誠実であること
-------	---------

**導入**

- ・将棋の三礼に「負けました」というものがあります。「負けました」は、何のために言うのでしょうか。
- ・「僕」のどのようなところが気になりましたか。

**本時のねらい**

人や物事に対して誠実であることの意義や価値に気付き、自己の行為やその結果に責任をもとうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

**基本発問（中心的な発問を活かすための発問）**

- ①徹底的に時間稼ぎをしていた「僕」や、ネット将棋に戦意喪失し、黙ってコンピュータ画面を閉じた「僕」は、何を考えていたのでしょうか。
- ②勝負に負けそうになったときに、投げやりになったり悔しがったりする「僕」の気持ちに、共感できますか。

**中心的な発問**

「僕」と「敏和」には、どのような違いがあるのでしょうか。

**指導方法の工夫**

- 発問に対する生徒の回答に問い返しをすることで、生徒が、人や物事に対して誠実であることについて、具体的にイメージできるようにする。
- 主題に対して、生徒が多面的・多角的に考えるために、中心的な発問に至った後の発問で、話し合いの時間を設定する。

**終末** 書く活動を通して自己内対話を促し、これまでの自分の生き方を振り返ったり、これからの自分の生き方について考えたりする。その後、教師の説話を聞く。

**（板書計画の例）**

場面絵

僕

- ・時間稼ぎ
- ・ずるい

共感できない

共感できる

- ・ずるいことをしてまで勝ちたくない
- ・負けて得る経験もある
- ・相手が見えないからいいや

心から負けを認めることができる人で在るために、大切にしたいこと

- ・負けを受け入れる誠実な気持ち
- ・自分自身が、結果に納得できるだけの努力をすること
- ・相手がいるからこそ試合ができるということを忘れないこと
- ・相手がいるから自分自身が成長できるということを自覚すること

場面絵

敏和

- ・負けてもそこから成長しようとしている
- ・相手のことも考えている
- ・正々堂々

僕

- ・何が何でも勝ちたい
- ・自己中心的
- ・ずるい

『ネット将棋』

将棋の三礼のひとつ「負けました」

- ・自分の負けを認めるため
- ・相手の勝利を称えるため